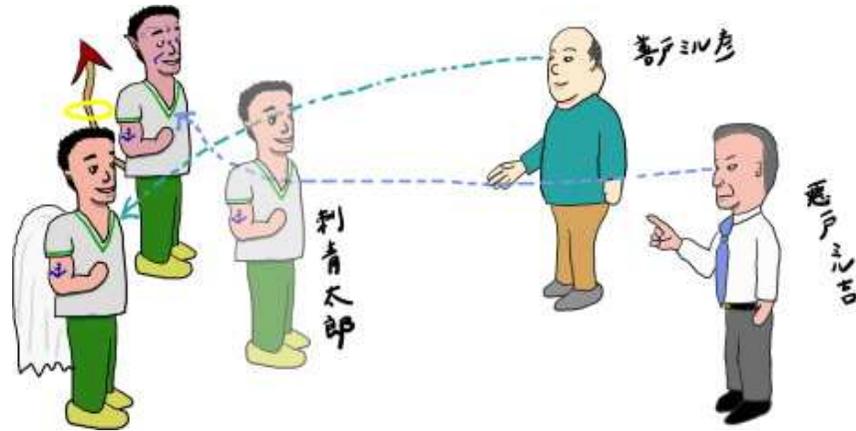


悪い善い人 - 4



東郷 潤

ここに刺青をした刺青太郎さんと、刺青太郎さんがどんな人かと考えている悪戸ミル吉さん、善戸ミル彦さんがいます。善戸ミル彦さんは、刺青太郎さんを愛に溢れた善い人に違いない、と思いました。一方で悪戸ミル吉さんは、刺青太郎さんを常習的な犯罪者だと思いました。

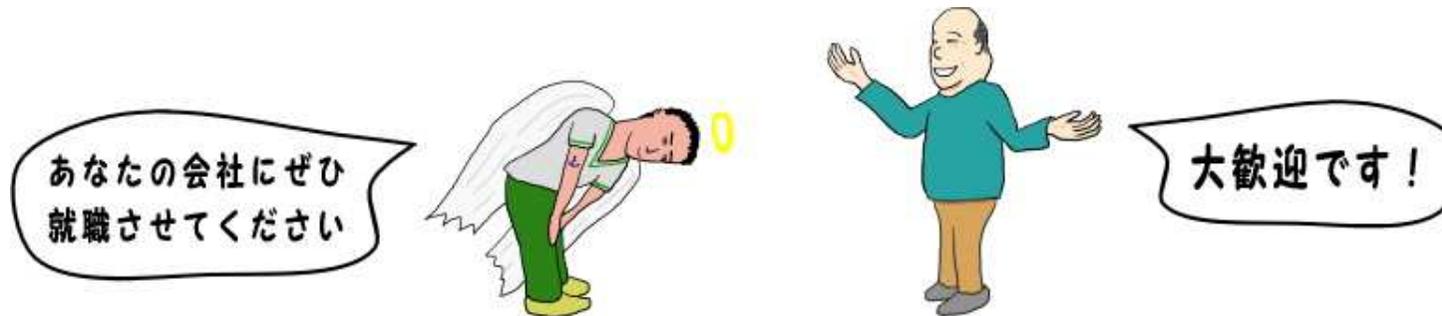


それで、実際はどうなのでしょう？ …現実の刺青太郎さんは、信頼に足る、とても仕事ができる人でした。



善戸ミル彦さんは刺青太郎さんをととても善い人だと思ったので、その認識に基づいて刺青太郎さんを扱います。

例えば、善戸ミル彦さんが就職の面接官なら・・・



善い人を積極的に雇おうとするのは、当たり前のことです。

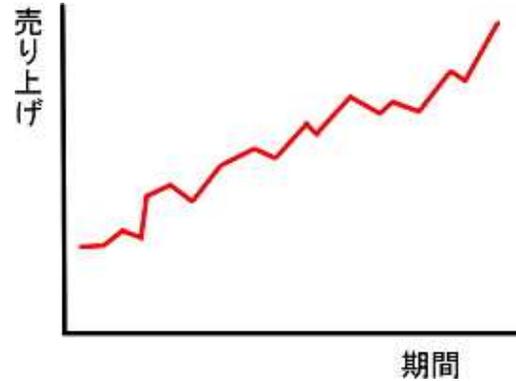
悪戸ミル吉さんは刺青太郎さんを悪い人だと思ったので、その認識に基づいて刺青太郎さんを扱います。

例えば、悪戸ミル吉さんが就職の面接官なら・・・



悪人らしき人を不合格にするのは、当たり前のことです。

善戸ミル彦さんに雇われた刺青太郎さんは、熱心に働き、善戸ミル彦さんの会社は大いに発展しました。



悪戸ミル吉さんに就職を断られた刺青太郎さんは、ライバル会社へ就職しました。おかげでライバル会社はどんどん売り上げを伸ばし、悪戸ミル吉さんの会社は競争に負けてしまいました。



もう倒産だ！

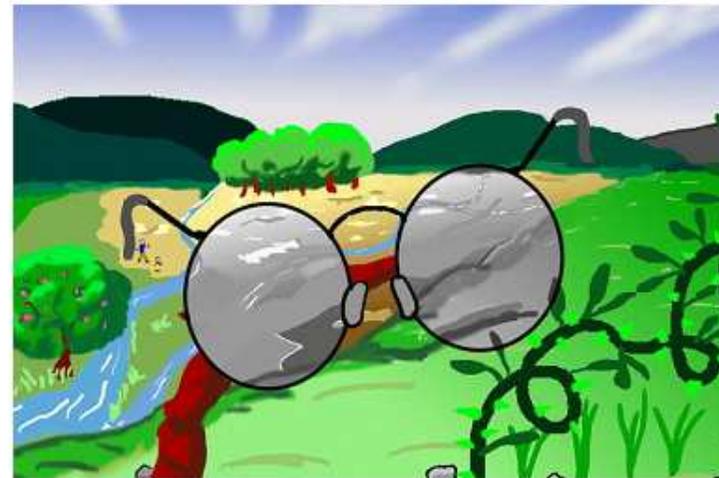
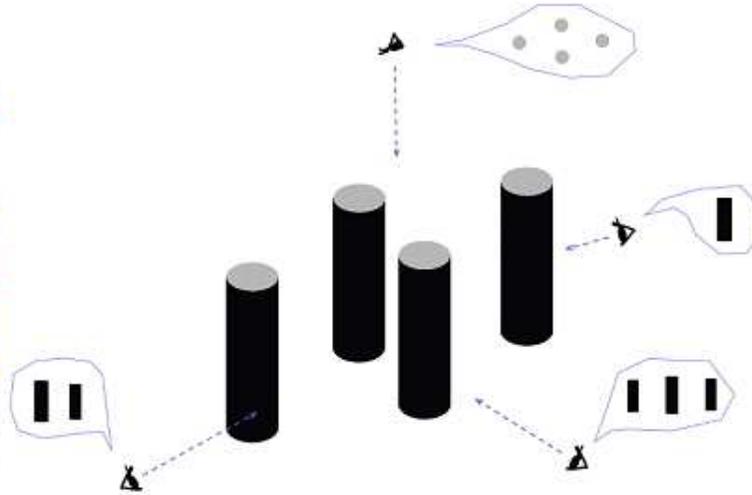
常習的な犯罪者を無防備に信用することは、危険なことでしょう。一方で、信頼に足る人を犯罪者だと誤解することも得にはなりません。認識を間違えては、望む結果を得ることは出来ません。



もうお分かりですね？ 問題は差別という「悪」や差別主義者という「悪人」をいかに滅ぼすかにある
のではありません。



問題は誰もが行ってしまうこと、つまり、**認識を間違えること（=錯覚、理解の不足）**にこそあるのです。



あとがき ー絵本「悪い善い人ー4」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013